

生活もあるのは普通の方がいい STOP! 精神科病棟転換型居住系施設!!

NEWS

通巻第24号(2015年1月9日) 発行: 病棟転換型居住系施設について考える会

新年あけましておめでとうございます。
今年もどうぞよろしく願いいたします。

新年第1号は、各地の動きを特集してお届けします。

千葉

千葉にはいない!! 精神科病棟転換型居住系施設 反対集会 (詳細 **6** 頁)
1月11日(日) 14:00～16:30 千葉市民会館 市民ホール 参加費無料

京都

わたしたちは地域で暮らしたい ～病棟転換型『住居』を考える～ (詳細 **7** 頁)
1月17日(土) 13:30～ キャンパスプラザ京都 4階 第2講義室

東京

地域で暮らすための勉強会 ～精神科病棟転換型居住系施設を考える東京集会 (詳細 **8** 頁)
1月29日(木) 13時～16時 いちょうホール(東京都八王子市)

各地で学習会や反対表明を出す動きが続いています。

愛知県での取り組み (報告)

日時: 平成26年12月20日(土)

社会の課題を作業的に考える勉強会 ～病棟転換問題を考察する～

場所: 愛知医療学院短期大学

「考える会」では、この問題について、多くの地域で学習会を開催していただくことを願っています。数人での小規模の学習会でも、依頼があれば講師を派遣したいと考えています。テキストには『病棟から出て地域で暮らしたい』(やどかり出版)をご活用下さい。

病棟転換型居住系施設について考える会

stopbttk@yahoo.co.jp

この『NEWS』は、複写、転送、転載、大歓迎です。ご自由かつ積極的にご活用ください。

作業を広く、そして深く見つめることは、私たちが様々な社会的な課題に気づき、説明し、改善していくことを可能にします。この勉強会では、社会的な課題として「病棟転換問題」を取り上げ、現状や家族のご意見についても情報を共有した上で、作業の意味、作業の影響力、場所と意味、豊かな地域社会の構築などの視点から、この問題と今後の展望についての考察を試みます。また、考察内容を踏まえ、今後の作業科学研究や関連する取り組み、そして広く市民と協力した活動などについて、参加者による意見交換も予定しています。

プログラム

1. 病棟転換型居住系施設問題の本質と問題点

杏林大学教授、日本病院・地域精神医学会 理事 長谷川利夫

2. 家族にとっての病棟転換問題 -地域で普通に暮らしてほしい

愛知県精神障害者家族会連合会 会長 木全義治

3. 作業科学論文を通して病棟転換問題を考える

作業ニーズと意味の理解から 紘仁病院 高木信也

場所と意味の理解から 名南ふれあい病院 倉田香苗

作業的公正の概念とその理解から あおいファミリー訪問看護ステーション 磯貝理栄

4. 作業に焦点を当てた実践を通して病棟転換問題を考える

特定非営利活動法人 いねいぶる 理事長 宮崎 宏興

愛知医療学院短期大学 港 美雪

5. ワークショップ -これからの取り組みについての話し合い-

社会の課題を作業的に考える勉強会

～病棟転換問題を考察する～

愛知県で作業療法士の集まり

報告者 みんなねっと副理事長 木全 義治

12月20日愛知医療学院短期大学に置いて作業療法士の勉強会が行われました。35人ほどの集まりでした。家族会(愛家連)理事も4名参加しました。

杏林大学教授の長谷川利夫さんより説明を受けた後、8名の作業療法士より、それぞれの立場から病棟転換の問題点が報告されました。私も家族の立場から話をしました。

その後グループに分かれて論議を行いました。参加者が少なく残念でしたが、私たち家族は作業療法士の人達の高い関心には驚きでした。

その後懇親会は参加者の半数の人が10時まで懇談しました。この関係を今日だけに終わらせないで引き続き一緒に行動を起こしていこうということになりました。

沖縄県での取り組み (報告)

11月29日 名護市の国立療養所沖縄愛楽園で開かれる「病があっても人として生きたいー『精神病』と『ハンセン病』を語る集い in 沖縄」が開催され、以下の決議文が採択されました。

病があっても人として生きたいー「精神病」と「ハンセン病」を語る集い in 沖縄ー

決議文

我国では世界の流れと相反し、精神障害者に対して人権を無視した隔離収容政策を進め、身体拘束を含む薬物療法中心の医療を黙認してきました。このことは私たちの命や生活を危うくする行為であり、国連拷問禁止委員会からも是正勧告を受けています。日本国憲法では全ての国民が自由と平等の基本的人権を持っており、日本が批准した国連障害者権利条約では障害者が特定の生活施設で生活する義務を負わないことを謳っています。政府はこの理念を遵守し、今すぐ精神保健福祉法並びに医療法の中の精神科特例等を廃止し、精神科医療を一般医療の枠組みの中で行い、隔離収容、薬漬けの治療を改めるべきです。

患者を病院内に長期間閉じ込めることは、病状を一層悪化させるだけではなく人間としての尊厳を失わせます。互いに尊重しあう共生社会のコミュニティで生きることこそが、人として回復(リカバリー)できる唯一の方法です。

国民が障害者に対し、偏見を持ち接してきたことは、人間としてあってはならない事です。精神病は今や5大疾患とされ、誰もがかかる病であり、誰にとっても他人事ではありません。

今ここに全障害者とハンセン病元患者、理解を示す関係者、そして一般国民と手と手を取り、誤った国の精神保健施策を正すべく闘っていくことを誓い、つぎ決議いたします。

二〇一四年十一月二十九日

病があっても人として生きたい「精神病」と「ハンセン病」を語る集い in 沖縄
参加者一同

決議事項

- ー 沖縄県は精神科病棟転換型居住系施設を絶対進めるな！
- ー 国は精神科病棟転換型居住系施設容認を撤回しろ！
- ー 国と沖縄県は全精神障害者が地域で自立生活するための予算を拡充しろ！
- ー 国は障害程度区分を無くし、精神障害者の自己決定権を重視した制度を創設せよ！
- ー 「生きる力」に根差したピアカウンセリングを進めよう！
- ー 私たちは仲間を増やそう！
- ー 国は現精神保健福祉法を廃止し、当事者主体の新法をつくれ！
- ー 国は精神科特例を廃止しろ！
- ー 障害者欠格条項をなくせ！
- ー 国と沖縄県は直ちに長期入院をなくせ！
- ー 沖縄県はインクルーシブ社会条例の理念を守れ！
- ー 国と沖縄県は憲法や国連障害者権利条約の理念を守れ！
- ー 誰もが精神病になっても地域で生きられるようにしろ！
- ー ハンセン病の過ちをくりかえすな！
- ー 精神障害者の人権を守れ！
- ー 障害者である前に人間だ！

病があっても人として生きたい「精神病」と「ハンセン病」を語る集い in 沖縄

実行委員会共同代表 新田宗哲

実行委員会共同代表 金城雅春

埼玉県さいたま市での取り組み (報告)

さいたま市精神障害者家族会連絡が中心になって、「精神科病院の病床を居住系施設に転換」する施策に反対し、地域福祉施策の充実を求める意見書をまとめました。

2014年(平成26年)9月2日

「精神科病院の病床を居住系施設に転換」する施策に反対し、地域福祉策の充実を求めます。

さいたま市精神障害者家族会連絡会
会長 飯塚 壽美



7月1日、厚労省および「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策に係る検討会」では、精神科病院の「病棟転換型居住系施設」を条件付きで容認する報告書をまとめました。これは、これまで日本で取られてきた精神科医療の根本的な誤りを継続する施策であり、到底受け入れることはできません。

この10年あまり、国策として取り組まれた「長期入院者の退院促進」事業は、ここさいたま市でも保健所を中心として行われましたが、なかなか目標値には至りませんでした。

その第1の理由に、「本人の退院意欲がないこと」、第2に「家族の受け入れがないこと」、が調査結果から明らかになりました。家族として非常にやりきれない思いがいたしました。それは医療側の言い訳でしかありません。

病状が最悪期に至り、何の積極的な支援も受けられず、あらゆる努力をして、やっと医療につなげた家族は、孤立し、情報も支援もなく偏見の目にさらされながら日々の生活を送っています。その家族の元に、家族に責任を課して退院させるところに大きな問題がありました。家族の心のケアは、今もほとんど図られていません。

その様な事態の中で、精神科病床の一部を居住系施設に転換して、そこに移して退院したと数える考えは、「長期入院者の退院促進」に取り組んできた施策に逆行して、これまでの隔離策をさらに強めることになり、到底家族は受け入れることができません。

どのような条件を検討しても、病院は「治療の場」であり、どのように改修をしても、病院は「生活の場」にはなりえません。精神疾患を抱えた当事者にとって、精神科医療は必要不可欠ですが、今ある病院建物を利用して居住系施設に転換することには反対いたします。

これまでの日本では、国策としての精神科医療のビジョンがしっかり描かれないままに、民間精神科病院に治療をまる投げしてきました。そして、経営を第一とする民間病院では、世界の先進国でも異常なほどの病棟数と長期在院日数に至っています。今回の決定が実施されることは、世界に例を見ない異常な病院中心主義が、今後も延々と続くことにつながるでしょう。

「社会治安」という名目を掲げ、低い水準で民間の精神科病院を乱立させ、精神障害者を病院に隔離することで一般社会の安定を図ろうとしてきたわが国。

精神医療・保健・福祉予算の97%が医療分野で使われ、その中でも入院医療費に74%が使われている日本。その結果、地域における福祉策や住まいのための予算などが大変貧弱であり、これまで通り、本人が成人となった後も家族の手に委ねられたままの状態が続かねません。

医療と福祉の両輪が必要な精神障害者が地域でしっかり生きるために、さいたま市精神障害者家族会連絡会では、精神障害者を地域で支えるACTという仕組みづくりを推進してきました。これをより一層推進させたいと考えます。

これを機に、精神科病院は大きく方針転換をして、医師・看護師・その他の専門職を多く抱える病院の人的資源を利用して、地域ケアを担うACTのような取り組みをするならば、当事者は安心して院外で生活ができます。一日も早くこのような仕組みに切り替えてください。

今後も、短期入院から通院治療に移る新たな精神疾患の患者は増えると思われますが、早期に専門職による社会復帰への手助けがあれば、再発が少なく、服薬をしながらも自力で生活して、税金を納める側の人になり、国全体に貢献できるものと思われます。それは家族の願いでもあります。精神障害者以外の他障害者にとっても、この仕組みは大きな資源になると考えます。

権利条約を批准した日本、いち早くノーマライゼーション条例を制定したさいたま市において、家族に依存することなく、本人の希望する場所で、地域の支援を活用しながら、本人が安心して生きていけることを、切に願っています。

今回の世界の動向に明らかに逆行する精神医療福祉政策に徹底的に抗議するとともに、地域福祉策の充実を切に希望いたします。

団体名 さいたま市障害者協議会

会長 浅沼 田鶴子



上記の声明に賛同いたします。

2014年(平成26年)9月2日

「精神科病院の病床を居住系施設に転換」することに断固反対し
地域福祉策の充実を求めます。

さいたま市精神障害者家族会連絡会

飯塚 壽美



さいたま市障害者協議会

浅輪 田鶴子



さいたま市身体障害者福祉協会

田口 秀之助



(社)さいたま市手をつなぐ育成会

宮部 幸子



さいたま市聴覚障害者協会

川津 雅弘



NPO さいたま市視覚障害者福祉協会

長根 清平



NPO さいたま市障害難病団体協議会

河端 静子



(公)日本オストミー協会さいたま市支部

野本 喜代司



さいたま市肢体不自由児・者父母の会

小泉 俊男

(社)埼玉県筋ジストロフィー協会
さいたま市支部

猪瀬 剛



さいたま市精神障害者当事者会ウィーズ

山本 純子



さいたま市ダウン症連絡会

佐藤 美也子

障害者(児)の生活と権利を守る
さいたま市民の会

渡辺 浩二



OMIYA ばりあフリー研究会

傳田 ひろみ



(社)ノーマライズうらわ

添野 ふみ子



千葉にはいない！！

主 催 ちば精神障害者の居住福祉を語る会
千葉県精神障がい者地域活動支援事業所協議会
特定非営利活動法人全国精神障害者地域生活支援協議会（あみ）
後 援 千葉兄弟姉妹の会

精神科病棟転換型居住系施設

反対集会

日時：平成 27 年 1 月 11 日（日）
14:00～16:30 （受付 13:30～）

参加費：無料
事前申込み：不要

場所：千葉市民会館 小ホール

厚生労働省で、昨年来開かれてきた「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策にかかる検討会」に於ける最終場面で、国は精神科病棟の一部をグループホームなどの「居住系施設」に転換しようとしています。

病棟の看板を書き換えることで、同じ病院の敷地内で医療施設から福祉施設に転換させ、統計上の精神科病床数、入院患者数を減らそうとしているのです。

ここ千葉でも、改めてこの問題について当事者たちの意見を聞きながら共に考え、私たちひとりひとりが意見表出することが重要です。

ぜひご参加ください。

● 病床転換型居住系施設について

検討会での事

- ・伊澤 雄一 氏 元検討会委員
全国精神障害者地域生活支援協議会（あみ）代表
- ・澤田 優美子 氏 元検討会委員
日本社会事業大学 大学院博士後期課程

反対の声

- ・長谷川 利夫 氏
病棟転換型居住系施設について考える会 代表
杏林大学教授

● リレートーク「それぞれの立場から思うこと」

- ・長期入院を経験したご本人 ・家族 ・多職種関係者

お問い合わせ： ちば精神障害者の居住福祉を語る会 事務局 ☎ 047-325-6615
千葉県市川市新田 5-14-11 NPO法人 ほっとハート 内 松崎

平成 27 年 1 月 13 日

ちば精神障害者の居住福祉を語る会
千葉県精神障がい者地域活動支援事業所協議会
特定非営利活動法人全国精神障害者地域生活支援協議会

精神科病棟転換型居住系施設に反対する声明

私たちは、このたび「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策に係る検討会」において容認の方向性が示された「精神科病棟転換型居住系施設」に反対します。

病院は、居住の場ではありません。医療の場です。

入院医療の必要のない方は、速やかにまちなかへの退院を進めるべきであり、その前提のもとに国や都道府県は然るべき施策を講じなければならないはずです。

我が国に、7 万人を超えるとされる「社会的条件が整えば退院可能な精神障害者」が存在すること自体が既に由々しき人権侵害であるにもかかわらず、形ばかりの「地域移行」を推進するために、さらなる人権侵害を重ねようとする過ちは断じて犯してはなりません。

ここに私たちは、多くの良識ある市民の方々の賛同を得て、以下の通り申し入れます。

精神科病棟転換型居住系施設の指定をしないこととともに、入院医療が必要ないにもかかわらず入院生活を余儀なくされている精神障害者のまちなかへの退院を進めるために、真に実効性のある施策の検討を行ってください。

以上

【連絡先】

ちば精神障害者の居住福祉を語る会 事務局
〒272-0035 千葉県市川市新田 5-14-11
電話 047-325-6615 FAX047-325-6618

学習講演会

わたしたちは地域で暮らしたい ～ 病棟転換型『住居』を考える ～

講師：増田 一世 氏 (公益社団法人やどかりの里 常務理事)

日時：2015年1月17日(土) 午後1:30～

場所：キャンパスプラザ京都 4階 第2講義室

講師からのメッセージ

京都の皆さんのまとまり、行動力、発言力にはいつも勇気づけられています。
こころの健康政策構想実現会議の100万人署名の時には本当にありがとうございました。
このたびの病棟転換居住系施設問題にも、以前から訴え続けてきた抜本的な精神医療改革、
精神保健福祉改革が求められているのだと思います。
ぜひ京都の皆さんのエネルギーを全国に広げていただきたいと願っています。

1月にお目にかかることを楽しみにしています。

増田 一世(公益社団法人やどかりの里)

【主催】

「病棟転換型住居を
考える」

京都実行委員会

【連絡先】

つくしハウス

担当:白坂

電話 075-366-6064

fax 075-366-6065

増田一世(ますだかずよ)氏プロフィール

1978(昭和53年)明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業。精神医学ソーシャルワーカーを目指し、やどかりの里の研修生となり、精神障害者とのグループ活動に従事する。精神障害者への援助活動の傍ら、出版事業を行う。1979(昭和54)年やどかりの里職員。1985(昭和60)年やどかりの里理事。1989(平成元)年やどかり出版代表。1997(平成9)年精神障害者福祉工場「やどかり情報館」を開設し、やどかり情報館館長。2001(平成13)年やどかりの里常務理事。精神障害者とともに働きながら、地域づくり、人づくりに注目した事業展開を目指している。

<対外的な活動>

日本障害者協議会常務理事。日本健康福祉政策学会理事。ヘルスケア関連団体ネットワークの会共同代表。こころの健康政策構想実現会議共同代表。埼玉県セルフセンター協議会会長。さいたま市障害者政策委員会委員。埼玉いのちの電話評議員など。

<主な著書>

プラクティス・1 共生・共創・協働の社会1 もう1つの価値(単著) やどかり出版 2005年
これでいいのか障害者自立支援法(共著) 1. 2 2006年
社会福祉方法原論の展開(共著) 高菅出版 2007年
変わる 変える 創る これからの地域実践・運動・組織(共著) やどかり出版, 2010年
病棟から出て地域で暮らしたい(共著) やどかり出版 2014年

- ★わたしたち抜きに、私たちのことを決めないで!!
 ★東京に、絶対に病棟転換型居住系施設を作らせない!!
 ★医療97%、福祉3%という偏った予算配分を変えさせよう!!

〈地域でくらすための勉強会〉

～精神科病棟転換型居住系施設を考える東京集会～

◇日時:2015年1月29日(木) 13時～16時(受付開始:12時半)

◇会場:いちようホール(〒192-0066 東京都八王子市本町 24-1)JR 八王子駅北口より徒歩 12 分

◇プログラム:長谷川利夫氏、伊澤雄一氏による基調講演

リレートーク(精神障害がある人々、障害がある人々、家族、医療従事者、社会福祉従事者、市民の体験や活動)などを予定

◇参加費:無料 ◇事前申し込み:不要

障害者権利条約が日本においても批准され、今年の 2 月から発効しました。政府は権利条約批准のために国内法を整備したといいますが、障害がある人々に対する隔離・収容主義は続いています。政府は精神科病院で入院治療の必要性がなく社会資源の不足など社会的な理由で退院できずにいる人々を一生閉じ込めるために、精神科病棟をグループホームなど居住系施設に転換し活用することを可能とする方針を強引に決定してしまいました。この方針に反対する闘いが、6 月 26 日の日比谷野外音楽堂への 3200 人の結集に引き続き、全国で粘り強く行われています。

東京都八王子市・青梅市周辺は実は世界一の精神科病床の多い地域です。そこに人生被害者ともいべき精神障害がある人々が置き去りにされているのです。45 年、30 年、15 年、10 年と精神科病院に隔離されてしまったのは、明らかに国の責任なのです。わが国の高度成長期に、生きづらさを抱えた人々を、どんどん民間精神科病院を増やして、そこに丸投げしてしまったのです。

2015年1月29日、八王子市にある「いちようホール」へ、精神障害がある人々、特に社会的入院者の人々に連帯するみなさんに結集して頂きたいです。それぞれの思いや体験、提言を交流し、闘いを継続・発展させていきたいと願っています。

◇主催:精神科病棟転換型居住系施設を考える東京集会実行委員会

◇連絡先:①長谷川利夫:携帯電話 090-4616-5521 メール hasegawat@ks.kyorin-u.ac.jp

②きょうさん東京支部:電話 042-306-8633 FAX042-367-4288

メール tokyo@kyosaren.or.jp

③ヒューマンケア協会:電話 042-646-4877 FAX042-646-4876

④こらーんたいとう:電話 03-5819-3651&5819-3711 FAX03-5819-3652

メール koraru@mub.biglobe.ne.jp

◇賛同団体・賛同人:きょうさん東京支部、全国「精神病」者集団・東京、DPI 日本会議、NPO こらーんたいとう、NPO 障害者権利擁護センターくれよんらいふ、東京都精神障害者就労系事業所連絡会(じゅさんれん)、池原毅和、心神喪失者等医療観察法をなくす会、心神喪失者等医療観察法(予防拘禁法)を許すな!ネットワーク、国立武蔵病院(精神)強制隔離入院施設を考える会

いちようホール★JR 八王子駅北口より徒歩 12 分。バスでは JR 八王子駅北口 6～10 番・京王線京王八王子駅 2,3 番のりば、「横山町三丁目」または「八日町一丁目」下車徒歩 3 分



★いちようホール(〒192-0066 東京都八王子市本町 24-1)

JR 八王子駅北口より徒歩 12 分

いちようホール

★賛同の呼びかけ★

賛同団体・賛同人の呼びかけをしております。ご賛同いただける方は連絡先までお願いします。

賛同金 団体 一口 3,000 円 個人 一口 1,000 円

団体名またはお名前(個人の場合)とふりがな、連絡先(ご住所、電話番号、メールアドレス)をお知らせください。

★振込み先・ゆうちょ銀行【店名】〇二八(読みゼロニハチ)

【預金種目】普通預金

【口座番号】4195912 【名義】滝柳洋子(タキヤナギヨウコ)

(ただし、この集会の賛同金とわかるように振り込んで下さる際には、賛同団体・個人名のあとに【ピ】とお書き添え下さいますようお願いいたします)

緊急出版 「病棟転換型居住系施設」問題をめぐって

病棟から出て地域で暮らしたい

精神科の「社会的入院」問題を検証する

A5版 124ページ 定価 1000円 2014年9月 やどかり出版



病棟転換型居住系施設問題は、看過できない社会問題である精神科病院への「社会的入院」を見かけ上解決してしまおうという動きでした。しかし、日本における「社会的入院」には、歴史的な背景の中、根深い問題が横たわっています。本書は、「社会的入院」問題の背景、その本質を伝えつつ、改革への具体的方策を描き出しています。

また、3,200人が集まった日比谷野外音楽堂での緊急集会でのリレートークが掲載されています。この人たちの声を社会に広く伝えたい、そんな思いを込めて本書が出版されました。全国各地で開催される集会や学習会の資料としてご活用いただければと思います。

目次

第1部 障害者権利条約からみた「社会的入院」問題

- 第1章 「病棟転換型居住系施設」問題の背景と危険性 長谷川利夫
- 第2章 社会的入院問題の背景と改革への視座 藤井克徳
- 第3章 社会的入院の真の解決に向けて 増田一世

第2部 生活するのは普通の方がいい

- 第1章 新たな局面を迎えた精神障害分野 増田一世
- 第2章 6.26 緊急集会リレートーク

* 地域での集会・学習会の資料で本書をご利用になる場合には、10冊以上ご注文の場合には2割引き+送料でお分けできます。(50冊以上の場合には2割引き+送料無料)

ご注文は、やどかり出版まで (電話 048-680-1891 ~ 1892 Fax 048-680-1894)

注文用紙

JD ブックレット2 病棟から出て地域で暮らしたい 精神科の「社会的入院」問題を検証する		冊 申し込みます	
〒 ご住所	Tel Fax		
ふりがな お名前	E-mail		

病棟転換型居住系施設について考える会

stopbttk@yahoo.co.jp

この『NEWS』は、複写、転送、転載、大歓迎です。ご自由かつ積極的にご活用ください。

《連絡先》長谷川利夫 (杏林大学保健学部作業療法学科)

TEL.042-691-0011 (内線 4534) [携帯電話] 090-4616-5521

<http://blog.goo.ne.jp/tenkansisetu>